



「元氣のもと」は「逆セラピー」

西田和歌子さん。(仮名)(当時84歳) 妄想や幻覚症状を起こし、目が離せない状態トイレに閉じこもり、便器の中で手や髪を洗う。服のボタンを口でちぎったりもするので、介護者がついていないと危険だった。

自宅で娘夫婦と暮らしていたが、症状がどんどん進み、家族は行動を制止するのに疲れ果てていた。精神面の介護負担を軽減するために、デイケアを利用していたが、そのスタッフも目を離せなくなっていた。

しかし、ジャスティンたちがいくと違った。ジャスティンを「ぼくちゃん」スウィートを「シロ」と呼んで、撫でながら、周りの人たちと農作業の話などをしている。西田さんが不穏状態に陥ったときにジャスティンを連れていき、抱っこしてもらおうと、ジャスティンをあやすように「ねんねんころりよ、おころりよ…」と本当に優しいお母さんの顔をしていた。

「それこそ、ジャスティンの『逆セラピー』なんだよ。」生長は膝を打って話しかけた。

「この子にとって私は必要な存在なのだ」「この子のためにも私が元気でいなければ」という思いが、「生きがい」になり「元氣のもと」になるのだと生長は言った。認知症のケアにも、それが必要なのだと。(中略)

生長もジャスティンの『逆セラピー』こそセラピーの本質的な何かを示しているのではないかと考え始めていた。(中略)

西田さんは30分間、リードを離すことなく、ジャスティンを見守っていた。その日はジャスティンが帰ってからも、いつになく落ち着いて過ごしていたことが、介護担当者から報告された。



自分が役割をもつこと、責任を果たすこと、そこまでいかなくとも犬とふたりで自由に過ごすことの意味は大きかった。あれはその後のドッグセラピーのターニングポイントになったなあと、生長は振り返る。

この出来事は、ドッグセラピーが認知症にも効果を発揮するのだと、生長たちに強く感じさせた。リードは人と犬をつなぎ、失っていた世界とのつながりを修復したのだ。

『セラピードッグの子守歌 認知症患者と犬たちの3500日』より抜粋 著者 真並恭介

アニマルセラピーは 最後の本丸



帝京科学大学アニマルサイエンス学科准教授
横山章光

はじめまして。私は広島県三原市で幼稚園から中学校まで過ごし、高校は高松で、完全な「瀬戸内」人間です。精神科臨床の傍ら、この20年アニマルセラピーを追っかけていますが、当初から私は「それ」を最後の本丸と考え、まずは付随する「人間と動物の関係」を全て埋めることに、いそしんで参りました。例えば「ペットロス」「動物虐待」「多頭飼育」「動物介在教育」「動物観」などです。それらを先に片付けるのが、動物に協力していただくことの「礼儀」だと考えたからです。そこら全てを自分の中で納得させるまでに、15年以上かかりましたが、どうにか整理がついたと思っています。私にとっては、いよいよ本丸のアニマルセラピーです。先駆者の生長先生ともお会いし、さまざまな御示唆を得ることができました。今後は、人間関係者と動物関係者、そして実践者と研究者がチームを作り、手を携えてこの分野を広げていかなければならないのですが、このチーム作りが思ったより難しいという印象を受けています。これからもよろしくお願いたします。

《横山章光氏 略歴》

帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科准教授、
精神科医(精神保健指定医、精神科専門医)。

産業医科大卒。

共済立川病院、神奈川県大和市立病院、防衛医科大学校を経て2005年から現職。

動物やロボットを医療に取り入れる研究・活動を行なっている。

前ヒトと動物の関係学会事務局長。



セラピーの輪 ~

6月10日(日) 第二回ドッグセラピー交流会を開催しました。
ドッグセラピーをより多くの方々に知ってもらい、身近に感じてもらいたいという想いで、今回からボランティア以外の方にも参加を募った結果、市内だけでなく、市外からも来て頂き、計10名にご参加頂きました。

「オリエンテーション」と「トレーニングの実践」の2部構成で、約3時間行いました。
オリエンテーションでは、正の強化やカーミングシグナル、社会化や基本訓練についての講習を、各家庭犬の様子などの話を交えながら行いました。

また、「ドッグセラピーの現状～メカニズムについて～」生長理事にも講演をして頂きました。



オリエンテーションの様子



基本訓練「×ロンとアイコンタクト」

トレーニングの実践では、車椅子や杖などを使用するウォーキングマナー、セラピー時の利用者の方への声掛けなど、セラピーの疑似体験を行いました。

シャイン班は、ウィールチェアウォーキング(車椅子歩行)訓練。ゆき班は、マット訓練(指示をすると、マットの上にお座り待てをする)など、担当するセラピードッグにより内容を変え、様々な疑似体験を実施しました。



シャインとウィールチェアウォーキング



セラピー疑似体験

交流会後にアンケートを実施し、セラピーの必要性が少し解った、セラピーの現状をもっと知りたい等、たくさんのご意見を頂きました。次回の交流会では、もう少し、アニマルセラピーについて掘り下げていきたいと考えております。次回開催11月11日

交流会に参加して、セラピードッグ達の訓練を体験させて頂きました。活き活きと嬉しそうに訓練し、又自信に満ち溢れた犬達に魅了されました。

癒してくれるだけではなく、失われたやる気や人生の喜びまでも引き出させてくれるセラピードッグ達、犬たちの純粋な愛に感動をし、貴重な体験をさせて頂きました。

また、とっても綺麗な犬たちに、スタッフの皆さんの犬たちへの熱い思いも感じました。

ドッグセラピーたちが社会でごく当たり前を受け入れられ、活動の場が広がることを願ってやみません。

黒山幸子



普段行う事の出来ない、車椅子を使っでのトレーニングも体験させて頂き、犬と利用者の方、どちらにも気を配ることや、接し方の難しさを痛感しました。



また、セラピスト側だけでなく実際に自分が車椅子に乗って利用者の方の立場になることで、気付いたこともたくさんありました。

また、実際にセラピストの方がセラピーを行う際どのような声掛けをしているかも教えてもらい、とても勉強になりました。

たくさんの方と犬についてお話が出来たのもとても楽しかったです。

久世まどか



残暑お見舞い申し上げます☆

〈お問い合わせ〉

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

<http://www.therapydog.jp>